

# 上海から見えた日中関係

(科学技術振興機構 中国総合研究・さくら  
サイエンスセンター第130回研究会)

外務省研修所長(大使)  
片山 和之  
2019年9月13日

# はじめに

## ● 中国(5回)と本省中国課(2回)勤務を通じ過去36年の中国を定点観測(外務省生活の1/3)

(在外)

- ・第1回：北京(1984～86, 在外研修) 胡耀邦総書記の日本人青年3千人招聘。靖国公式参拝(反日デモ)。
- ・第2回：北京(1987～89, 二等書記官) 天安門事件。
- ・第3回：北京(1997～99, 一等書記官) 東アジア金融危機。中国大使館誤爆事件。
- ・第4回：北京(2008～10, 経済公使) リーマンショック。中国GDP世界第2位へ。
- ・第5回：上海(2015～19, 総領事) 江南地域と日本との深い結びつき。

(本省)

- ・第1回：中国課事務官(1983) 胡耀邦総書記の訪日。
- ・第2回：中国課課長補佐, 首席事務官(1992～1994) 天皇皇后両陛下御訪中。

## ● 日中関係及び中国の変化と不变

(変化したもの)

- ・中国の台頭⇒経済力, 軍事力, 政治力, 独自の国際システム形成
- ・対中依存度の高まり⇒貿易・投資, 訪日客, 留学生, 在日中国人
- ・対中親近感の低下⇒尖閣, 歴史問題, 愛国主義教育, 人権・民主抑圧, ODA評価

(変化していないもの)

- ・共産党一党支配体制⇒天安門事件, ベルリンの壁崩壊, ソ連消滅の危機を乗り切って世界第2の経済大国に

## ● 中国庶民の人生哲学

- ・自分の身は自分で守る⇒「上に政策あれば, 下に対策あり」。国家に頼らず地縁・血縁・友人関係のネットワークを駆使し, 資産・家族・国籍を内外に危険分散してサバイバルを図る。中国人の「悲哀」とともに、「逞しさ, 強かさ」を痛感。

## ● 私の対中基本認識(3つのフロント)

- ・経済面⇒運命共同体(日本の発展=中国の発展)。相互互恵関係。
- ・文化・人物交流面⇒国民間の理解促進の重要手段。体制に関わらず14億の中国人は永遠の隣人。
- ・政治・安保面⇒基本的価値を共有せず。必要な備え。

# 本日のプレゼンテーション要点

- I. 最近の日中関係改善の背景
- II. 上海地域から見えた日中関係の現状
- III. 今後の日中関係を考える上での視座

# I. 日中関係改善の背景

- 1. 両国首脳の国内基盤⇒中国習近平主席：不満分子はいるものの政治的権威と指導力を強め二期目に。安倍総理：歴代最長の内閣へ(11/19, 桂太郎内閣と並び歴代最長(2,886日))。お互いに真剣に向き合う必要。両首脳で合意すれば国内をまとめる政治力あり。
- 2. 首脳間の信頼関係⇒マルチの場での二国間会談(2014～), 総理相互公式訪問(2018), 安倍・習電話初会談(2018), 習G20大阪首脳会合出席(2019)等を通じ個人的信頼関係を徐々に醸成(仮面から笑顔へ。国旗も背後に用意)。
- 3. 「一带一路」構想への対応⇒呼称はともかく日本側の一定の「前向きな」対応(例:第3国における日中ビジネス協力52件の協力覚書)。
- 4. 課題先進国としての日本の価値⇒少子高齢化, 医療, 介護・福祉, 環境保護, 都市化等中国にとり問題解決先進国としての日本の価値を再認識。
- 5. 国民レベルの交流⇒交流拡大(特に, 訪日中国人旅行者数838万人(外国訪問者の27%) (2018))。
- 6. 米中関係の戦略的対立⇒経済摩擦, 南シナ海, 台湾問題, 北朝鮮問題, 安全保障を含む米中二超大国間の覇権争いの中での日本の重要性の高まり。

⇒日中関係は正常な軌道を回復し, 新たな段階へ。来年春の習主席国賓訪日に原則合意。

## II. 上海から見える日中関係の現状

- 1. 日本との関係の重要性・緊密性
- 2. 中間層・富裕層の対日好感度の高さ
- 3. 若者の日本文化への関心
- 4. 経済人との実務的付き合い
- 5. 後発国の優位性の活用
- 6. 対中認識の温度差(中国の変化の速度と規模)
- 7. 敏感な政治問題の影響

# 日本と上海地域の結びつき

1. 日本と管轄地域(上海市, 江蘇省, 浙江省, 安徽省, 江西省), 特に上海との関係の重要性・緊密性。

- 登録在留邦人数(世界5位。管轄地域5.7万人, 上海市4.4万人) (2017)
- 日系企業拠点数(世界1位。管轄地域2万拠点, 上海市1万拠点) (2017)
- 日本人学校生徒数(世界2位。上海市2,200名。世界唯一の高等部) (2018)
- ビザ発給数(全世界の1/3。2018年約225万件)。
- 管轄地域に日本の対中投資の80%, 貿易の45%, 在留邦人の46%, 日系企業拠点数の70%が集中(2016年乃至2017年)。
- 管轄地域の人口は米国に次ぎ世界第4位, 経済規模は仏, 英を抜き独に次ぎ世界5位。

2. 中間層・富裕層の対日好感度の高さ。

3. 青年層の日本文化(アニメ, 漫画, 小説, 日本料理等)への関心。

4. 国際的, 實際的で, 洗練された実業家。

# 数字で見る上海総領事の活動

(着任後3年余(2015. 8~2018. 12)の総領事活動)

- ・企業：企業・商工会との意見交換**619回**，企業訪問・行事出席**184回**，(注：総領事館の企業支援件数約**2, 600件**)。
- ・政府幹部との会見：**74回**(局長級以上)
- ・地方：地方出張**91回**。
- ・公邸行事：公邸会食(含レセプション)**752回**。
- ・講演：**40回**(中国語，英語，日本語)
- ・インタビュー：メディア・インタビュー**56回**。
- ・学校：大学訪問**43回**，日本人学校・補習校関係行事**38回**。
- ・挨拶：各種行事での挨拶**396回**。
- ・表彰：叙勲**5名**，外務大臣表彰**4名**，総領事表彰**30名**・団体。

# 後発国の優位性活用(Leapfrog)

● **電話市場**⇒初訪中時(1984年)は、一般家庭

に固定電話が普及していない時代。

完全に普及する前に携帯電話の

時代を迎え、現在、中国の携帯電話

普及数13億台、世界最大の携帯

電話市場。



電気自動車



キャッシュレスの屋台



無人店舗

- **商取引**⇒実店舗が農村地域に広がる前に電子商取引の時代を迎え、インターネット使用人口(98.3%がスマートフォーン利用)は8億人突破(2018年6月末)。世界最大のインターネット市場。2016年のスマホ決済額は日本のGDPを超過(39兆元(約660兆円))。デジタル経済規模約384兆円で中国GDPの約30%(2016年)。
- **電子商取引の売上**⇒アリババの年間売り上げは、Amazon, eBay, 楽天の合計額を超過。2018年11月11日(独身の日)のアリババの取引額308億米ドル。
- **キャッシュレス社会**⇒現金の低信用度(偽札、不衛生・不完全な紙幣)の時代からキャッシュレス化時代へ。
- **世界の最先端へ**⇒インターネットを活用したヒト、モノ、サービス、カネの流れが怒濤の如く国内に普及。蓄積する膨大なビッグデータを新たなビジネスに展開。中国はいわば後発国の優位性(leapfrog)を活用して一気に世界の最先端に躍り上がった観。

# 対中認識(変化の速度と規模)の温度差

- **中国の変化に対する認識**⇒日本国内では、中国の現状、変化の速さや規模に対する認識が不十分。
- **ステレオタイプの対中観**⇒多くの日本人は、相変わらず古い情報とステレオタイプの認識に基づいて中国を批評。

## (中国の速度・規模感を示す例)

- **中国の名目GDP**⇒(1978⇒2017)225倍、現在日本の2.6倍。モノ輸出額230倍(2.26兆ドル)(2017)
- **自動車販売**⇒2,888万台で世界1(米1,723万台、日523万台)(2017)
- **軌道交通網(地下鉄)**⇒上海666kmで世界1(東京300km)(2017)
- **高速鉄道**⇒上海1.4分に1本発着。新幹線路線距離日本の約8倍(2017)
- **港湾コンテナ取扱量**⇒上海港37,130TEUで世界1位  
(ベスト10の7港は中国。東京港は4,530TEUで圏外)(2016)
- **スマホ決済**⇒660兆円(日本のGDPの1.3倍)(2016)
- **独身の日(11/11)**⇒アリババ取引額1日で約308億ドル(楽天の1年分EC総額にほぼ匹敵)(2018)
- **米国大学に留学した中国人**⇒35万人(No1)(日本人1.9万人)(2016)
- **世界大学ランキング(THE)**⇒清華大学22位、北京大学31位、東大42位、京大65位(2018)
- **アジア大学ランキング(THE)**⇒清華大学1位、北京大学5位、東大8位、京大11位(2019)
- **フォーチュン500**⇒中国企業115社(日本51社)(2017)
- **2018年の企業世界時価総額**⇒トップ20社には米13社、中国4社、日本ゼロ(トップ50の中に唯一トヨタ)  
(1989年には20社の内14社が日本企業(中国ゼロ))
- **新築高層ビル(200m以上)**⇒全世界128棟のうち中国84棟(2/3)(2016に完成した建物)  
(日本は1棟(JRゲートタワー(名古屋46階)のみ)

### III. 今後の日中関係への視座

1. 引っ越しの出来ない隣人関係⇒好悪で取捨選択できない関係。
2. 戦略的互恵関係の推進⇒win-win経済関係の構築。
3. 世論外交の重要性⇒スマートフォン時代。「政治体制」と「国民」の区別。
4. 敏感な政治問題の慎重な取り扱い⇒歴史、台湾、尖閣、海洋問題。
5. 冷静・客観的な相手国認識⇒感情に左右された主観的対中観の排除。
6. 基本的価値を共有せず⇒一党独裁体制の不確実性や異質性への対処。  
米国及び価値を共有する諸国との連携。
7. 中国との差別化⇒中国が代替できないモノ・コトで世界に貢献。（了）